



「風にむかって」 絵/文 白澤 恵舟

懸命に飛躍のトレーニングをする小雀。
緊張ぎみに初登校する孫の姿に重なって見える。
頑張れがんばれ、前向きに……

障害者 スポーツ振興(下)

会長 菅原 三朗

「スポーツ立県」を目指す本県の障害者スポーツの振興を図るため、県障害者スポーツ協会の本年度の基本方針は障害の程度、年齢、性別にかかわらず誰もが親しめる障害者スポーツの普及を図り、その裾野の拡大に向けた各種事業を推進することです。

そのため県障害者スポーツ振興計画の推進を図るとともに、障害者スポーツ活動を支援する指導者の育成を図ること、又スポーツを通じて障害者の心身の増進と社会参加の促進を図ることなどであります。

重点事業としては(1)各地区障害者スポーツ教室の開催では、在宅の身体・知的・精神障害者の健康及び体力の増進と交流を目指し、毎月1回県勤労身体障害者スポーツセンターでデスクゴルフ・スポーツ吹矢等各種スポーツを実施するとともに、本年度から新たに県内7地区でも各福祉事務所、社会福祉協議会との共催でフライングディス

クと卓球バレーを主体に実施する。(2)障害者スポーツふれあい交流事業では、障害者と健常者がスポーツを通じて交流を深めることで理解の促進を図るため、次代を担う青少年の若々しい感性に期待をして中学から大学までの学生を主体に、車椅子バスケットボールは秋田大学と平鹿中学校サウンドテーブルテニスは秋田看護福祉大学と日赤秋田短大などと夫々2回ずつ実施する。(3)本年度の新規事業である「障害者スポーツを楽しむ日」の実施については、日常的にスポーツに親しむことで体力や健康の維持増進をはかるほか、仲間との交流を通じ社会参加への意欲を高めることを目的に、毎月第2第4木曜日に県総合福祉センター体育館・県勤労障害者スポーツセンター体育館の無料開放や、競技用具の無料貸し出しを行い障害者が気軽にスポーツを楽しめるようにした。又障害者スポーツ推進員・指導員及び地域のスポーツクラブ員を配置し、指導を行ったり一緒にスポーツを楽しんだりする。実施種目はフライングディスク、卓球バレー、バスケットボールなど参加者の要望と施設・用具の状況に応じて行う。(4)更に県内の障害者スポーツ団体相互の連携を強化し、障害者スポーツに係る諸課題について協議し本県の障害者スポーツの振興を図るため、昨年度「秋田県障害者スポーツ団体連絡協議会」が設立され

18団体が加盟しています。

当連絡協議会では昨年度は手始めに、練習環境の整備要望活動として県立総合プールの車椅子利用者用更衣室・障害者用トイレ・洗面所等の改善について県教育庁に要望、又県立中央公園のアーチェリー場について、県内唯一の専用競技場ですが全く障害者仕様になっておらず、ノーマライゼーションの理念からも車椅子利用者でも使用できるよう改善案を提示して、秋田地域振興局に陳情しました。

又指導者の派遣要望が身障者軟式野球・障害者水泳・知的障害者ソフトボールなどのクラブがある施設から、コーチ等の派遣要望を受けて、県体育協会を通じて夫々関係団体からベテラン指導員を派遣いただきました。今後とも18団体連絡協議会の情報交換と連携の強化が重要であります。

その他9月4日には第8回秋田県障害者スポーツ大会の開催、10月23～25日には第10回全国障害者スポーツ大会(ゆめ半島千葉大会)が開催され、6競技へ選手役員46名が派遣されます。

障害者スポーツの本格的な普及・振興は全国的にも未だその緒についたばかりであります。障害者のより豊かな社会参加促進のためにも地域社会の理解とともに、普及啓発と振興発展が望まれるところであります。

東北地方整備局と意見交換

県協会は4月20日、秋田県建設業会館にて、「地域建設業に関する意見交換会」を開催した。

国土交通省東北地方整備局から青山局長をはじめ県内の出先事務所長ら10名、協会からは菅原会長をはじめ各支部長ら8名が出席。

冒頭菅原会長は「現政権の『コンクリートから人へ』という安直な

キャッチフレーズのもと断行された公共工事の大幅削減により、地方全体が衰退している。地方を支える基幹産業として公共工事の重要性を堂々と訴えていく。また、入札制度については、品確法の施行、総合評価落札方式の導入などで、環境は整備されてきているものの、まだ改善の余地はある。」と述べ更なる改善を求めた。これをうけて青山局長は「社会資本の維持管理のほか災害時などは建設業に頼



るしかない。良い社会資本を残すため、率直に意見を交換したい。」と述べた。

東北地方整備局、県内事務所からは平成22年度事業について情報提供があり、その後おこなわれた、意見交換では、「ワンデーレスポンスの拡大と実施にあたっての課題」、また、「豪雪地域における、克雪のためのインフラ整備の重要性」などについて、活発な議論が交わされた。

表彰式・ 第78回定時総会

社団法人 秋田県建設業協会では5月27日(木)、表彰式並びに第78回定時総会を下記により開催いたします。

記

○表彰式

時間 午後3時15分～

場所 秋田キャッスルホテル(矢留の間)

- ・社団法人 秋田県建設業協会表彰
- ・社団法人 全国建設業協会表彰伝達
- ・財団法人 建設業福祉共済団表彰伝達
- ・社団法人 全国土木施工管理技士会連合会表彰伝達

○定時総会

時間 午後3時45分～

場所 秋田キャッスルホテル(矢留の間)

○懇親会

時間 午後5時10分～

場所 秋田キャッスルホテル(放光の間)

雇用改善推進委員会を開催

推進方針、実施計画など報告

県協会は4月19日(月)、秋田ビューホテルにおいて、秋田労働局、秋田県及び関係団体による雇用改善推進委員会を開催し、業界、行政機関、雇用能力開発機構の代表など10名が出席した。

会議の冒頭、委員長が「最近の流れから、雇用の確保、新規雇用が困難であり、地域の事情も一律ではなく問題点もさまざま。各地域の状況を認識している雇用にかかわるさまざまな方面の方々が一堂に会し意見を述べるのはいい機会だと思います。雇用改善へ向けての忌憚のないご意見をいただきたい」とあいさつ。

引き続き協議事項にはいり、事務局から平成21年度雇用改善推進事業実施事業報告、平成22年度雇用改善推進方針、平成22年度雇用改善推進事業実施計画について説明があった。その中で、21年度立ち上げた『建設系高校生特別教育支援モデル事業』について、予想を上回る希望者があり、191名が資格取得し、今年度も開催時期、募集要項を見直し引き続き実施すること。そのほか、年2回としてきた新規学卒入職者研修会を今年度から年1回とすることを報告。

また、秋田県高等学校長会工業部会からの強い要望により今年度の新規事業として、『高校教員建設技術訓練支援事業』を創設。県内の教員を対象に建設業協会等の協力を得て、実務的な建設技能の指導を行うもので、協会として全国初の取組みとなることなどが報告され、すべての推進方針、実施計画が了承された。

また、委員からは「昨年より新規採用者が大幅に増えているのは、秋田県の格付けで23・24年度は新規採用について加点対象とされたことが企業側へも受け入れられてきているのではないかと」、「公共事業の投資が増えなければ企業としても新規採用は難しい。高校生だけでなく、大学生の就職希望者も多く、特に大学生は企業を掛け持ちして内定を出しても取り止めたりされる。企業側としても選ばれる企業になるのも大変だと思う」「経営事項審査で新規採用については加点され



ているが、一生懸命努力して現状維持している企業には何もないというのはどうか。制度の見直しが必要ではないか」「新規採用している企業は職員数50名以上の規模の大きいところで、定年の補充というシステムが出来上がっている企業ではないか。ほとんどの企業は補充ができないのが現状」「継続、教育、期間的な雇用について。また、平均的なものと究極的なものが我々建設業には求められている。これからはメンテナンス中心に平均的なものも質の高いものを取り上げていく時代が来るのではないかと」といった意見が出されるなど、積極的な意見交換がなされた。

県協会

玉川保養所 開所のご案内

5月1日より10月31日まで

このたび5月1日より(社)秋田県建設業協会 玉川保養所
が開所いたしました。

現地はまだ雪が残っておりますが、建物周辺はすっかり春
を迎えており、冬と春を同時に満喫できる風景がご覧いただ
けます。

また、これから迎える6月は山々の木々が完全に芽吹き、
森林浴に最高の季節となります。

なお、協会では玉川保養所ホームページを開設しており
ます。

(URL … <http://www.a-kenkyo.or.jp/tamagawa/index.html>)

玉川保養所 検索

こちらでは時折々の現地の状況(写真)、利用料金・お申込
方法等ご案内しておりますので、ご利用を希望の際はご覧下
さいますよう、併せてご案内申し上げます。

皆様のご利用をお待ちしております。

【お申込み・お問い合わせ】

(社)秋田県建設業協会

〒010-0951 秋田県秋田市山王四丁目3-10

電話 018-823-5495(代表)

FAX 018-865-2306

(社)秋田県建設業協会 玉川保養所(現地)

〒014-1205 秋田県仙北市田沢湖玉川字渋黒沢1

電話 0187-58-3021

FAX 0187-58-3022



(財)建設業福祉共済団から

建退共秋田県支部から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

秋田水風景

文と写真/加藤隆悦

フリーカメラマン兼フ
リーライター
取材・執筆歴/旅の手帖、
WoodyLife、ベンチャー・
リンク、郷、ある他
海外取材歴/ドイツ、アメ
リカ、ブラジル
写真塾・写楽 主宰/写真
教室、撮影ツアー企画等

Vol.12

安の滝

【やすのたき】

北秋田市阿仁担当



行こうと思えばいつでも行けるといいう油断
から、結局はしばらく足が遠ざかってしまおうと
いうことが、よくある。

森吉山麓の「安の滝」もそうだ。秋田を代表す
る名瀑の一つだが、「消えてなくなるわけでも
なし」と、かなりの間ご無沙汰を決め込んでい
た。昨年久しぶりに出かけてみたのだが、たい
へん驚いたことは、非常に多くのカメラマンが
滝の前に陣取っていたことだ。

三脚を立て、光線の加減が良くなる瞬間まで
粘っている。後から来た者は、三脚を立てる場
所が空くまで待機していなければならぬ。ま
さに、『行列のできる滝』だ。

駐車場に停められたクルマのナンバーから
察するに、彼らの多くは県外から来ている。「こ
ちらはいつでも行ける」と呑気な考えでいるう
ちに、安の滝は全国のカメラマンの人気者にな
っていたのだ。

安の滝へは、国道105号を秋田内陸線比立
内駅付近で分岐し、舗装路を12キロほど走った
のち、未舗装のたいへんな悪路の山道をさらに
5キロ走り、そこから溪流伝いに徒歩で小一時
間。「行こうと思えばいつでも」とは書いたが、
実はけっこうたどり着くまでたいへん。午後か
ら出かけたのでは滝の前まで行くのに夕方近
くになってしまいかねない。それほど到達難
度の高い場所でありながら、なぜにこれほどま
で安の滝は人を惹きつけるのだろうか。

写真を見ただけでもこの滝の美しさは誰に
も理解できると思うが、やはり実物を見るとま
るで迫力が違う。はるばるやってきたカメラマ
ンたちも、自分なりの写真作品におさめるのは
もちろんのこと、おそらくは、しばし息をのん
で安の滝に見入っているのだろう。秋田の我々
はいつでも行けるのだから、たびたび「会いに
行きたい」滝である。

朝散歩の思考回路

藤原 優太郎

日本人はなぜこうも桜が好きなんだろうと思う。列島に桜前線が北上しているさなか、この春は異常ともいえる寒さで秋田の桜はつぼみを堅く閉ざしたままだった。それが大型連休を前にしてようやく開花宣言が出され、遅まきながら爛漫の春を迎えようとしている。

雪解けも済んだ4月に入り、思い立つように朝の散歩を始めた。桜に誘われたというわけではない。自宅から千秋公園が近いこともあり、早朝の1時間ほど外を歩くことに決めた。散歩は運動のためではない。ただなんとなく思考の時間が欲しかっただけである。

できるだけ人通りの多い道を避け、公園の静かな木立の中を歩いている。時あたかも観桜会の時期、出店並ぶ二の丸をパスして穴門の堀から鐘楼に登り、さらに茶室付近に出て長屋門の土手から本丸周遊が定番のコースである。

二の丸広場は避けているのだが、ちょっと気になる場所があり、佐竹資料館の前に行ってみた。そこには明治から大正期の歌人若山牧水の歌碑がある。大きな碑には漂泊の旅人、若山牧水が大正5、6年頃に秋田を訪れた時に詠んだ歌が刻まれている。

「鶉(ひわ)めじろ山雀(やまがら)つばめなきしきり
さくらはいまだひらかざるなり」

酒好き牧水は、まだ桜の咲かない千秋公園で酒宴でも張ったものだろうか。

牧水には自由気ままな漂泊のイメージがあるが、そうばかりでもないようだ。旅をする際には事前に帝国陸軍参謀本部の5万分の1地図と磁石を用意することを忘れなかった。

「幾山河越えさりゆかばさびしさの果てなむ国ぞ今日も旅ゆく」

あまりに有名な歌だが、明治から大正時代、秋田を訪れた子規や牧水など当時の旅人の行動スタイルがうらやましい。

「……さくらはいまだひらかざるなり」

九州人の牧水にとって秋田はどれほど果てなむ国に映ったことだろう。

長屋門の土手のベンチに腰掛けていると朝7時を告げる鐘が鳴った。間延びするような七つの鐘の音を耳にし、大きなケヤキを見上げるとつがいのアオゲラが太い幹にしがみついている。そんな啄木鳥(キツツキ)の様子を目にして歌の一つも詠めない散歩人が哀しい。

松下門から下って穴門の堀に行くと満開になりかけた桜のむこうに県立美術館の大きな屋根が見えた。今、話題の建物である。天上側部に並ぶ丸い明かり取り窓が特徴的だ。

再びベンチに腰掛けて美術館のことを思った。移転か存続かで揺れる古い建造物であるが、近代の秋田県人はいとも簡単に古い物を捨て去る習性があるようだ。文化、芸術のセンスが希薄ということにつながる悲しい県民性か。

以前、パリのオルセー美術館を見学したことがある。そこは古い駅舎を再利用した伝統ある美術館で、古いものを生かす哲学、理念が感じられた。まさに比較するべくもないが、秋田市中央街区にぎわい創出の移転計画に、広小路はじめ旧婦人会館跡地周辺を秋田市の中心と考えている人が今どれだけいるだろう。

「路はひとつ 間違えることは無き筈 磁石さえよき方をさす」(牧水の文より)

秋田市中央街区にどのような政治的、経済的な磁場があるかは知らないが、どう考えてもよき方角を指す磁針が狂ってしまっているように思えてならない。

